



ステンレススチール仕様の新しいカラトラバ・ウィークリー・カレンダー5212モデルは洗練されたシンプルさを誇っている。この新しいタイムピースは、曜日と日付に加え、パテックフィリップの時計としては初めて、スマートフォンの時代にも有用性を発揮する週番号表示を備えている。

文 ニコラス・フォークス

## 新しいウィークリー・カレンダー

新しいカラトラバ・ウィークリー・カレンダーは、洗練され、実用性に富んでいる。しかし一見、シンプルに見えるその外観には、新しいコンプリケーションが現行コレクションに加えられる時、開発チームが直面する困難な使命が隠されている。

1か月の長さは地球を回る月の公転により決定される。三日月や満月という月の満ち欠けの周期は、平均約29.5日である。これだけであれば、パテックフィリップ技術陣は、5270や5940モデルなどのクラシックなタイムピースの文字盤に月齢表示を統合することを考えたであろう。だが月の長さが月の公転周期であるのに対し、年と季節は、太陽を回る地球の公転により決定されるのであり、それにより365.2422日の周期

で春夏秋冬の季節、および分点（春分・秋分）、至点（夏至・冬至）が繰り返されるのである。ここまでの計算の苦手な私たちでも、月が12回公転するのに必要な日数が、地球が1回公転するのに必要な日数と同じではないことによる明らかかな不都合に気づくはずである。これは、時を計ろうとする際に人類について回る暦上の不具合であった。シーザーは、ユリウス暦を創始して2つの天体運動の相互関係を有和させようと試みた。彼の時代までに、暦と季節の間には約3か月のずれが生じていた。皇帝シーザーは、増大し続ける領土を統括するツールを必要としていたのである。ユリウス暦は、1年を365.25日と定め、これを実際の月齢とは無関係に12に分割して月とし、ずれていた季節の始めと終わりを修復した。数学的に不正確であったこの仕組みは、1582年、法王グレゴリオ13世により再修正された。法王は、各月の不ぞろいな長さ、閏年、100年毎の閏年の例外規定からなる、今日のグレゴリオ暦を私たちに遺した。これは数学的な曲芸であったが、月



5212Aモデルの文字盤は、通常とは異なり、中央に5本の指針があり、時、分、秒、週番号、および曜日を表示する。また3時位置に日付表示窓がある。曜日と週番号の調整は、それぞれ8時位置、10時位置の調整ボタンで行う。また日付調整はリュウズで行う。

の動きに基づいた12回のサイクルを太陽を回る地球の動きに合わせてという古来からの願いに沿うものであった。

今日シーザーがローマ帝国を構築中であつたなら、実益主義の男である彼は新しいパテックフィリップ・カラトラバ・ウィークリー・カレンダー5212Aモデルのシンプルさと実用性を歓迎したのではないかと私は想像する。このタイムピースは、ほとんどの人にとり身近な、週を単位とするカレンダー機能を搭載している。1年を日曜日ではなく月曜日から始まる週の数に分割することは、今日の業界標準であり、これは私たちにとって意味のあるシステムである。私たちはもはや「GIAMGMI」(ありがとう神様、今晩は満月と下弦の間の月だ)とは言わない。むしろ1週間の労働の最後の日に「TGIF」(ありがたい神様、今日は金曜日)とつぶやく人が多いことだろう。

5212Aモデルは、年次カレンダー5035モデル、カラトラバ・トラベルタイム5134モデルなど、パテックフィリップのいわゆる「有用なコンプリケーション」ファミリーの最新メンバーである。「週番号の表示は新しいコンプリケーションであり、当社のコレクションにはこれまでなかったものです」とパテックフィリップのタイムピース開発部長フィリップ・バラは誇らしく説明する。これが初めて話題になったのはおよそ10年前だが、今日ついに時計として発表されたのである。「当社は年次カレンダーやトラベルタイムなど、有用なコンプリケーションを長いこと発表していませんでした。ニューモデルは、顧客に人気のあるこの重要なファミリーの新しいメンバーとなります。」

このスチール・ウォッチは、5320モデルを思わせる段差のついたラグとベゼル、文字盤表面を100%活用し、最高の視認性を実現するきわめて読みやすい表示など、ティエリー・スターン時代のパテックフィリップ・デザインの顕著な特徴を備

えている。文字盤は日付表示窓に加え、4つの情報(月、週番号、時刻、曜日)を表示する同心円目盛を備えている。指針は5本ある。時、分、秒針、および週番号(月名の内周にある)と曜日という重要な情報を即座に読み取れる、レッドのヘッドを備えた2本のハンマー型指針である。

文字盤は表示できつり埋まっているように思われるかも知れないが、実際にはほとんど安らかな調和に満ちている。その理由のひとつは、数字と文字に使われている書体がいわゆる活字ではなく、パテックフィリップのデザイナーが手書きしたものであるという事実にある。印刷された書体と同じくらいの明確さ、精密さを持ちながら、過去を彷彿させる人間の温かみに溢れている、とティエリー・スターンは語る。

彼は回想する。「創作段階でニューモデルの図面を見て、手書きされた文字と数字から得られるスタイルがたいへん重要だと直感したのです。私はデザイナーに、各々の文字を描き起こし、手書きの書体を創作するように指示しました。文字と数字は、それぞれが異なったユニークなものです。この特別に創作された書体が、文字盤にヴァンテジ風の、詩的なルックスを与え、私はそれをこの上なく評価しています。私にとって、この新しいコンプリケーションは、ウィークリー・カレンダーが印刷されたものしか存在しなかった、それほど遠くない過去を彷彿させるものなのです。」

5212というモデル番号が奇妙に親しみ深く聞こえるとしたら、それはこの時計のケース・デザインが、1955年に創作された大型のユニークピース2512/1モデル(2012年に最高見積価格の6倍以上である100万ドルで落札された)からインスピレーションを与えられたからである。ニューモデルは、このユニークピースのモデル番号の数字の順序を変えたわけである。

このタイムピースのケースのスタイリングは、パ

このタイムピースは、  
ほとんどの人にとり身近な、  
週を単位とする  
カレンダー機能を搭載している。

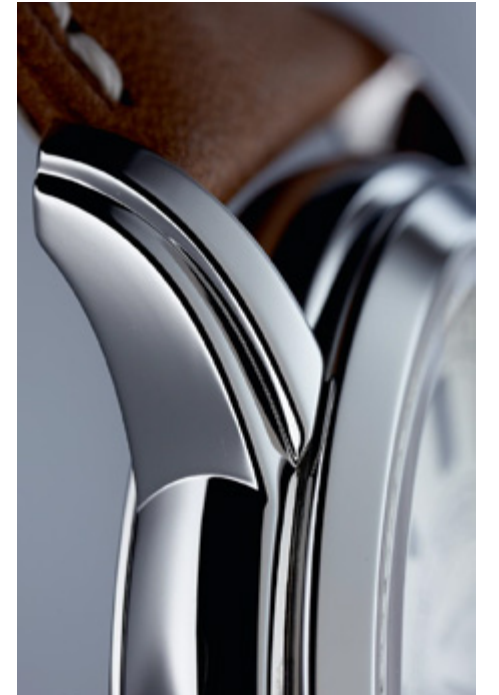


PHOTOGRAPHS: MICHAEL BODIAM, JAMES BORT, SOTHEBY'S



5212Aモデルは自動巻ムーブメント、キャリバー26-330 S C J SEを搭載しており、これはサファイヤクリスタル・バックを通して鑑賞することができる。この新しいキャリバーは303個の部品から構成され、直径27 mm、厚さ4.82 mm

である。テンプを一時停止させて時刻合わせの精度を向上させる機能、新しい特許取得のアンチ・バックラッシュ歯車などにより、全般的なパフォーマンスと信頼性が向上している。さらに技術陣により自動巻機構は完全に再設計され、洗練された。



5212Aモデルの文字盤側にはヴィンテージ・スタイルのボックス・タイプ・サファイヤクリスタル・ガラスが採用されている。ステンレススチール仕様のケースは直径40 mmである。デザインは、1955年に創作された2512/1モデル(右中)からインスピレーションを得ている。ニューモデルは特別にデザインされた書体は、創作段階のイラストに描かれた手書きの文字と数字からインスピレーションを与えられた(左上)。この人間的なタッチは、手書きの日記を彷彿させる。同心円状目盛のひとつが、53からなる週番号である。これは5~6年毎に通常(52週)より1週多い年があるため、今回は2020年がこれに相当する。

テックフィリップの過去を反映しているが、ムーブメントは来るべき未来を提示している。2512/1モデルは時刻表示のみの時計であったが、ウィークリー・カレンダー5212モデルはパテックフィリップのまったく新しいコンプリケーションである。後者は、週サイクルに従って較正され、異なった歯の長さを持つ非対称な歯車を搭載した新しいモジュールの開発を必要とした。しかしパテックフィリップ技術陣は、新機能のために新たなモジュールを開発する機会をとらえ、基本キャリバー全体を再設計することにしたのである。

5212モデルに採用された新しいキャリバー26330 S C J SEがそれである。新たな基本キャリバーは、新しいが親しみ深いという意味で、ヴィンテージ・パテックフィリップの名にふさわしい。まずこのキャリバーは、シンプルかコンプリケーテッド・ウォッチかを問わず現行コレクションの多くに搭載されている同社の自動巻基本ムーブメント、キャリバー324と互換性を持つ。新しいムーブメントは、キャリバー324を採用する現行モデルにそのまま搭載できるが、重要なパフォーマンスの向上をもたらすことができるのである。

このムーブメントの先進性は、多数の慎重な改良により実現されている。そのあるものはほとんど目につかないほどであるが、これらが集められることにより、パテックフィリップのムーブメントの精神に忠実なまま、重要な総合的利益をもたらしている。例えば技術陣は、ネジが自然に緩むという、時計業界が直面してきた最も古い問題のひとつを解決するため、何か月にもおよぶ研究の末、ネジ山の新しいプロフィールを見出し、その結果、性能が20%向上した。これは最も魅力的な発見ではなく、ニュース記事や、授賞式、赤絨毯とは無縁なものかもしれないが、慎重で、確実で、高品質な時計製作の本質を突いたものである。

これは、目立たない利益をもたらすムーブメント

である。例えば、高い精度で時刻合わせを行うためにテンプを一時停止させるストップセコンドにも見えない改良が加えられている。

自動巻機構にはさらに先進的な改良が見られる。自動巻ローターが再設計され、中央のネジには、取り付け時にドライバーが誤って滑っても安全なように、自動巻ローターを確実に締め付けるためのロック・ナットが採用された。

歴史的に、輪列歯車の磨耗と、ある程度のバックラッシュは、センターセコンド付自動巻ムーブメントの宿命と考えられてきた。しかし、この新しいキャリバーは、3番車を従来ものから、LIGA(X線を用いた微細加工)プロセスによる特許取得のアンチ・バックラッシュ歯車に置き換えている。これは伝統的な歯型プロフィールに代わり、各々の歯が前面、微細な鉤のような帯パネ、および後面(衝撃時の遊びを制限する)という3つの部分に分割されている。これによりテンプの慣性を手巻ムーブメント、キャリバー215に匹敵する値まで増加させることが可能となり、その結果パフォーマンスの安定性が向上した。

新しいムーブメントの美しさは、このようなレベルのディテールと配慮の賜物である。小さな改良の集積が、その論理的帰結として大きな利益をもたらすのである。これは、新しいムーブメントが提供するカレンダー機構そのものの完璧なメタファーといってもよい。論理的な美しさを愛する人であれば、すでにウィークリー・カレンダーを使用しているかもしれない。1月4日を含む週(2019年では2018年12月31日の月曜から始まる週)を第1週と定める。これさえ考慮すれば、新しい週の始まりは、必ず月曜日となる。月の満ち欠け、月末の不ぞろいなどは関係がなくなり、1週間7日のシンプルリズムがあるだけである。それは新しい5212Aモデルのシンプルなエレガンスに通じるものがある。

